

堺のがんばる企業応援マガジン

さかい IPC

SAKAI CITY
INDUSTRIAL PROMOTION CENTER
PRESS

PRESS 2010.10 vol.17

特集 ● いまを見据え、あしたに活かす

より競争力の高い企業へ、 後継経営者たちの挑戦



INDEX

特集 ● いまを見据え、あしたに活かす ————— 1

佐藤金属工業株式会社
高良鍍金株式会社
株式会社松本現色化学工場

気になる「さかい人」録 ————— 7

遊ぶ道具としての自転車の楽しみを
もっと多くの人に。

自転車博物館サイクルセンター事務局長
中村博司さん

さかいモノ語り ————— 11

百年、国産唐辛子を守り伝えて
株式会社やまつ辻田

財団法人
堺市産業振興センター

Sakai City Industrial Promotion Center <http://www.sakai-ipc.jp/>

より競争力の高い企業へ、 後継経営者たちの挑戦

国境を越えての企業間競争がますます激しくなり、堺市のものづくり企業をめぐる状況も厳しさを増しています。そうしたなか、新しい事業領域を開拓し、自らイノベーションを図っていく「第二創業」に果敢に挑戦するのは、事業を承継した経営者たちです。今号では、3社の事例から「第二創業」に取り組む意義と可能性を探ってみました。

自転車産業から 新たな産業への多角化を図って

佐藤金属工業株式会社 佐藤隆幸社長

自社で金型製造ができる
強みを活かして

堺市のものづくり企業の多くが、地場産業である自転車製造に関連して発展した歴史を持ちます。1948年創業の佐藤金属工業株式会社もまた、創業時より自転車の

プレス部品をメインに製造販売してきた企業です。現在も大手自転車部品メーカーの部品づくりを担っていますが、その割合は約3割。今やその倍近くの売上げを自動車部品が占めるようになっていきます。

「金型があつて、プレス機があれば、プレス部品は作れます。何に使われるかは関係





「最近は、積極的に展示会にも製品を出品して、自社の技術をアピールしています」と語る佐藤隆幸社長は、祖父の代から数えて3代目。自転車のプレス部品製造に携わるなかで培った厚物の技術を積極的に自動車産業にも活かす。

厚物の鍛造順送加工に特化して差別化

「創業者である祖父がもともと金型職人だったので、弊社には金型作りのノウハウがありました。そのために、プレス加工が可能かどうか判断の難しい部品の試作も簡単に行うことができます。つまり、製品実現の見極めができるということですね。それは他社にはない強みです。」

最近では、お客様のコスト削減のために、現状の切削加工など他の加工からプレス加工にシフトするご提案もしています」と佐藤社長は語ります。ところで、同社が現在、最も注力しているのは鍛造順送加工です。鍛造順送加工とは、

「ないんですよ」と語る佐藤隆幸社長。しかし、より品質要求の高い自動車業界に参入できたのには理由がありました。まず、家電メーカーの多い関西では、薄物のプレス加工企業が多いなか、同社は自転車部品に多い4〜6mmの厚物のプレス用設備が整っていたことが挙げられます。そして何よりも大きな強みとなったのは、プレス部品のための金型を自前で製造できる点でした。



鍛造順送加工で従来のプレス加工品にない三次元形状の製品を製造できるのが同社のアピールポイント。

同社では、現在4台の鍛造順送加工機を稼働させて、厚物の鍛造順送加工というかなり狭い領域に事業を特化。競合他社との差別化を図ったことで、新たな顧客の獲得にもつながっているそうです。

厳しい品質管理体制も整えて

自動車業界などの他業界へ多角化を図るなかで、「お得意先からシビアな品質監査もあり、品質管理や社員教育もチェックされました。それまでと全く異なる仕事のやり方が求められたのです。しかし、それに社員も一生懸命に取り組んだ結果、体制も整い、2005年にはISO9001も取得しました」と佐藤社長。今では機械メーカーから鍛造順送加工についての講師を依頼されるなど、社外からも高い評価を受けています。

「弊社が業界の多角化に成功したポイントは、自社の強みと弱みを見極めたことで

一つの工程の中で穴あけや絞り、シゴキ、曲げといった複数の加工を組み合わせて、板厚の異なる三次元的な形状の部品をハイスピードで生産するプレス加工法で、これにより大幅なコストダウンが実現できるとか。

す。金型という「知的集約物」を有して、一歩でも半歩でも先の加工技術に磨きをかける。それが日本のものづくり企業として生き残っていくための道ではないかと考えています」と、佐藤社長は熱く語っていました。



1993年の新社屋の完成と同時期に、1台の鍛造順送加工機を導入。現在は4台が稼働中。

佐藤金属工業株式会社

代表者/代表取締役社長 佐藤隆幸
 本社/堺市堺区神南辺町5-152-5
 TEL/072-227-7715(代)
 設立/1948年1月創業 1974年7月法人設立
 資本金/2,000万円
 従業員数/20名
 事業内容/自転車部品、自動車部品、民生用部品、建築用金具の金属部品などのプレス用自社金型の製造、プレス加工など
<http://www.satokk.com/>



3価クロメートへの完全移行で、 高い品質管理をアピール

高良鍍金株式会社 高良輝社長

単純なめっき加工への不安が高まって

単純な加工では海外に対抗できないという危機感を持って、第二創業に取り組んだのは、高良鍍金株式会社の高良輝社長です。同社の創業は1949年。自転車部品へのめっき加工からのスタートでした。先代社長までは自転車部品と建築部材のワッシャ1へのめっき加工が売上約90%を占めていたといえます。

同社が自動車部品を手がけ始めたのは、約25年前。それまでニッケルクロムめっきと亜鉛めっきの2本立てで稼働していたのを、その少し前からニッケルクロムめっきを廃止し、亜鉛めっきに特化させていました。均一に薄い金属被膜を施すことのできる電気亜鉛め



薬剤メーカーの協力のもと、同社オリジナルの3価クロメートの黄色を新開発(左上)。3価白との識別というニーズに応えているだけでなく、より耐食性を高めることに成功した。

きの主な用途は、自動車のエンジンまわりや足まわり、建築材料など水気を帯びる部品への防錆処理です。比較的安価なため、需要も広がっていましたが、高良社長はめっき業界を眺めつつ将来性に不安を感じていたと話しています。

実用化前から 3価クロメート処理に着目

「安価な電気亜鉛めっきは、不良が出ればやり直せばいいと、ただ量をさばいていました。しかし、そうしたシンプルなめっき加工は海外にシフトしていくことが予測できましたし、中にはめっき加工を内製化する部品メーカーも増加傾向にありま





「お客様に求められたデータや書類が即座に出せるだけでなく、求められる前に提出することも。かゆいところに手が届くような対応がお客様の信頼性を高めています」と語る高良輝社長は、創業者から数えて3代目。

より高品質をめざして、 ノンクロムも視野に

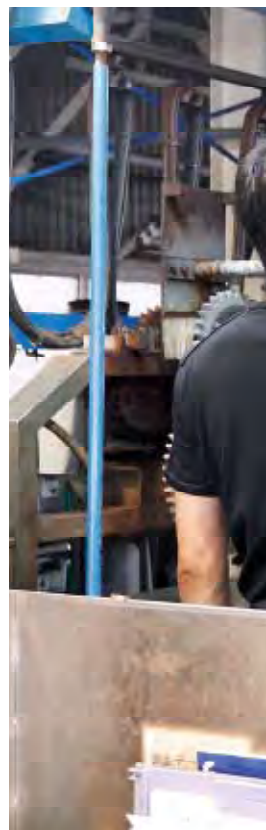
「6価に比べて3価クロメートは、薬品の温度や濃度、金属の蓄積量などシビアな管理が求められます。それまで見た目のチェックでOKだったものが、厳密なデータ管理が必要となりました。さらに、自動車部品を多く手がけるようになるのと、お得意先の監査もたびたびあります。6価と3価を並行してやっていた時もありましたが、いわばこの2つは全く違う血液型を扱うのと同じ。誤って混入することがないように、売上構成比が逆転したタイミングを見極め、5年前に3価クロメートへ完全移行しました。莫大な設備投資を必要としたため、先代社長とはかなり激しくやりとりもしましたが、最終的には将来性を理解してくれました」。3価クロメートへの完全移行は、数あるめっき専業企業の中でも断トツの早さ。もちろん、堺市内では初のことです。「売上の安定といった面で、6価クロメートをやめるリスクもありましたが、3価クロメートを求める品質に厳しいお客様についていこうと考えました。そこに、我々も生き残っていく道があるのだと信じたから

じ。誤って混入することがないように、売上構成比が逆転したタイミングを見極め、5年前に3価クロメートへ完全移行しました。莫大な設備投資を必要としたため、先代社長とはかなり激しくやりとりもしましたが、最終的には将来性を理解してくれました」。3価クロメートへの完全移行は、数あるめっき専業企業の中でも断トツの早さ。もちろん、堺市内では初のことです。「売上の安定といった面で、6価クロメートをやめるリスクもありましたが、3価クロメートを求める品質に厳しいお客様についていこうと考えました。そこに、我々も生き残っていく道があるのだと信じたから

専用の「検査室」を工場内に併設。データの収集や工程の記録、テストなどを行っている。



データ管理のためのコンピュータソフトと生産ラインを連動させた「全自動電気亜鉛めっきライン」。タッチパネル1枚での管理が可能になった。



です」と高良社長。この5年間の品質管理のノウハウを活かして、今春からISO9001への取得をめざして動き始めたところ。「3価クロメートはまだ途中経過にすぎず、すでにノンクロム処理を視野に入れて研究を進めています」。時代の先を見据えて進む底力を高良鍍金に感じました。

高良鍍金株式会社

代表者／代表取締役 高良輝
 本社／堺市堺区遠里小野町3-1-16
 TEL／072-232-3265
 設立／1949年12月
 資本金／1,000万円
 従業員数／12名
 事業内容／鉄素材の部品などへの電気亜鉛めっき(3価クロメート)



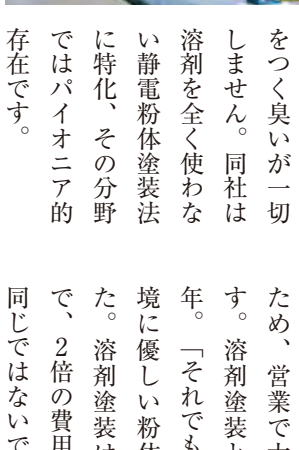
<http://www.takara-plating.co.jp/>

女性経営者のしなやかな感性で、国内屈指の粉体塗装企業へ成長

株式会社松本現色化学工場 松本益美社長

**身近な労働環境からも
溶剤塗装の限界を感じて**

256mのコンベアがまっすぐに伸びる



株式会社松本現色
化学工場の大型塗
装ライン。4年前
に完成した西日本
最大級の粉体塗装
工場です。塗装工
場といわれても鼻
をつく臭いが一切
しません。同社は
溶剤を全く使わな
い静電粉体塗装法
に特化、その分野
ではパイオニア的
存在です。

**西日本最大級の粉体塗装ライン
で圧倒的な強さを発揮**

溶剤の臭いがきつく、まさに「きつい・汚い・危険」の3Kでした。従業員の労働環境として考えても、このままでいいのかと思っていましたので、1993年に、父が粉体塗料に着手し苦労していた時も、その苦労は必ず報われると思っていました。

当初、粉体塗装は塗料の価格が高く、しかも溶剤に比べて調色も容易ではなかったため、営業で大変な苦労をしたといえます。溶剤塗装と並行していた時期も約10年。「それでも私は、これからは絶対に環境に優しい粉体塗装だと確信していました。溶剤塗装は耐候性や耐蝕性が劣るので、2倍の費用がかかっても、2倍もてば同じではないですかと粉体塗装への切り替えを訴えたんです」。松本社長が経営を引き継ぎ、粉体塗装への完全移行を決めたのが2003年。やがて、新工場構想が浮上りました。

松本益美社長は、塗装業界では珍しい女性経営者。しかし、その女性ならではの視点と感性が、今の松本現色を作り上げたと言っても過言ではないようです。

「父の代から経理を手伝っていました、操

業に気を遣うことが増えました。また、営業に回った先で求められることに旧工場では対応しきれず受注を逃すという悔しい思いもしていましたので、思い切って新工場を建てることにしたのです。正直、最初はこれほどの借金を背負って大丈夫なのかと思いましたが、一方で、同じやるなら他の塗装会社にはない特異な工場にしないと意味がないと、最長12m、1tの大物にも対応できるラインを整備することを決めました。さらに、得意先のコスト低減のた



最長12mの大物にも対応する大型塗装ライン

堺市産業振興センターの 「第二創業」支援事業

堺市産業振興センターでは、下記のような支援メニューで、市内中小企業の「第二創業」をサポートします。

企業間のビジネスマッチングを行います

マッチングコーディネーター事業

企業訪問によって得た確かな企業製品情報をベースに、企業間ビジネスマッチングを行います。市内ものづくり企業800社余りの中からパートナー候補を紹介します。

専門家が相談を受け、アドバイスします

専門家派遣事業

今抱える経営課題の解決のために、100名以上の登録専門家の中から最適の専門家を派遣。直接ご相談を受けて、アドバイスを行います。

経営課題を整理した上で、支援計画をオーダーメイドで作成し提案します。

事業計画の内容などを評価します

事業可能性評価事業

新規性、革新性のある事業に挑戦する企業の事業計画に対し、市場性評価、技術評価などを行います。高い評価を受けた企業については、専門家派遣やビジネスマッチング支援など、事業計画の実現に向け総合的にサポートします。

経営革新計画作成支援

中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の策定について、アドバイスを行います。計画の承認を受けると、低金利の融資や税制上の特例などを受けることができます。承認後も企業を訪問し、計画達成に向けた支援を行います。

資金調達をサポートします

堺地域振興ファンド

元気な中小企業の株式公開などを支援し、地域経済の活性化を図るために地域金融機関とともに堺地域振興ファンドへの出資を行っています。

設備投資や企業規模拡大など、中長期的な成長戦略を持っている企業にお勧めです。

金融支援(融資保証業務)

堺市中小企業融資制度に対する融資保証業務やベテランの専門スタッフによる融資相談を通じて、市内中小企業の資金調達を支援します。

▶お問い合わせ先

金融支援以外については…

(財)堺市産業振興センター 経営支援課

TEL：072-255-6700

FAX：072-255-1185

金融支援については…

(財)堺市産業振興センター 金融支援課

TEL：072-255-8484

FAX：072-255-5162



「小さい頃から、父の言うことを聞かないじゃじゃ馬娘だから良かったんじゃないですか(笑)」。先代にほとんど相談もせずに、新工場の建設を英断した松本益美社長。

男性社会の中で築いた人脈が、新米社長の大きな力に

め、前処理から後工程の簡単なセットアップや梱包、出荷、物流までをサポートできる建屋を整備しています。今やこれらの設備はフル回転状態です」。

今や、受注量の拡大によるスケールメリットで、溶剤塗装に対抗できるコストパフォーマンスを実現。松本社長も「今の営業は楽です(笑)。粉体塗装に変えない理由がどこにもないんですから」と話します。

「当時、粉体塗装が未確立な

技術だったために、業界でキャリアが浅い私でも入っていきやすかったですし、厳しい男性社会の中で、温かく指導してくださる方にも多く巡り会えました。昨今の環境問題が、追い風ともなっています。私は幸運の星のもとにいたと思いますね」と謙遜する松本社長だが、いち早く環境問題に着目したことが導いた成功のようです。



粉体塗装ブースは移動式が3台。塗料の入れ替え時間の無駄を省いている。

株式会社松本現色化学工場

代表者/代表取締役社長 松本益美

本社/堺市堺区築港八幡町1-52

TEL/072-228-3500

設立/1962年創業 1964年10月設立

資本金/1,000万円

従業員数/35名

事業内容/金属製品塗装

<http://www.e-matsugen.co.jp/>



今回の3社の事例から感じるのは、既存事業で培ったものを礎としながら、新たな領域を切り開いていく創業者的なバイオニア精神と、やわらかな経営センスでした。佐藤社長が語った「自社の強みと弱みを洗い出す」ことから、次代に生き残る道が開けるのかもしれない。



自転車博物館サイクルセンター
事務局長 中村 博司さん

1948年、京都府生まれ。立命館大学在学中に全日本アマチュア自転車競技選手権で優勝。地元の金融機関を経て、自転車部品メーカー・シマノに入社。営業部や宣伝部を経て、「自転車博物館サイクルセンター」には開設準備から関わり、1996年から現職。



自転車通勤中の中村さん。学生時代からの変わらぬ体型を維持している。

遊ぶ道具としての自転車の 楽しみをもっと多くの人に。

自転車博物館サイクルセンターの事務局長として、自転車の楽しさを広く伝えることをライフワークとして取り組む中村さん。その自転車人生をご紹介します。

「わが青春に悔いなし」そう思える学生時代を送ろうと、中村さんが選んだスポーツが自転車競技だったとか。全日本でチャンピオンになり、海外のレースでも活躍するまで自転車にのめり込みました。その後、自転車部品メーカー・シマノがスポンサーを務めるテレビ番組への出演がきっかけとなって、シマノに入社。公私ともに「自転車漬け」人生がスタートしました。

驚くのは、自転車通勤をするために引越しまでしていることです。勤務先から15〜20km離れている場所で、交通量の少ないルート上に家を探し、自転車専用の部屋も作ったとのこと。年間8000kmは走行しているそうです。「おかげさまで、20代の体重をキープしメタボとも無縁です(笑)」。

「自転車の魅力は奥が深いです。例えば競技としての自転車は、マラソン並みの体力のほかに、空気抵抗を読み戦略を考える知性、そして精密なメカである自転車を操作するスキルの3つが必要です。一方、自転車に

は「遊ぶ道具」、生活を楽しむ道具としての一面もあります。日本では長く、移動手段としてしか自転車を捉えてこず、楽しむ観点での自転車との付き合いは遅れていますが、この9月から堺市でも『コミュニティサイクル』※がスタートしました。当館でも、自転車散歩などのイベントを通して、自転車を楽しむライフスタイルを提案しており、環境にも健康にもいい自転車を普及させる使命を全うしていきたいですね」。

※コミュニティサイクル：通勤通学や観光などで自転車を共用で利用するシステム。大阪府内では、堺市が初めて運用を開始。



自転車博物館サイクルセンター

開館時間 / 10:00~16:30
休館日 / 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、年末年始
堺市堺区大仙中町18-2 ☎072-243-3196
<http://www.h4.dion.ne.jp/~bikemuse/>

「イベントホール・セミナー室・会議室」貸会場のご案内

イベントホールをはじめ、コンベンションホール、
大小会議室、セミナー室、小ホール(展示場)等をお貸ししています。

インターネットからの空き状況確認と仮予約ができます。

インターネットに接続したパソコンや携帯電話から、堺市施設予約システムを通じて施設の空き状況の検索や仮予約ができます。仮予約をする場合は、窓口で事前の登録が必要です。下記URLより施設予約システムに接続してください。



携帯電話からも
ご利用できます!



施設予約システム携帯用URL <http://www.city.sakai.lg.jp/i/shisetsu/top.html>

●貸会場受付・お申し込み・お問い合わせ (財)堺市産業振興センター 総務課 TEL:072-255-0111



イベントホール(ホール形式)



イベントホール(展示会形式)



セミナー室2



会議室4(机を固定机から可動機に改装しました)

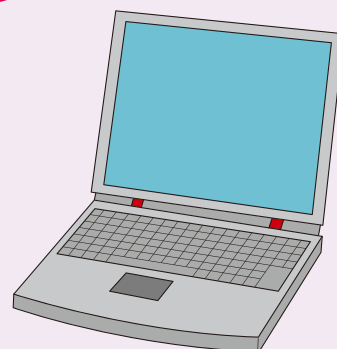
メールマガジンに登録して、 ホットなビジネス情報をゲットしよう!

無料

堺市産業振興センターでは、経営情報や各種セミナー情報など経営に役立つ情報を、読者にいち早くお届けするメールマガジンを配信しています。

ビジネスパートナーを探したい、専門家に相談したい、人材を育てたい、事業の評価を得たい、資金を調達したい、研究開発をしたい、環境配慮型経営に取り組みたい、産業をPRしたいなどの課題をお持ちで当センターをはじめ国、府などの各産業支援機関の最新情報をゲットしたいという方には最適です。

この機会にぜひ登録ください。



<http://www.sakai-ipc.jp/modules/contents/index.php/content0155.html>

技・食・楽 大産業祭

堺ええもん大発見!

ものづくりを体験しよう

「大産業祭」技・食・楽 堺ええもん大発見！ を開催

入場無料

堺市産業振興センターでは、「大産業祭」を10月23日(土)、24日(日)の2日間、にわたって開催します。入場無料。

「技・食・楽 堺ええもん大発見！」をテーマに、堺の伝統・地場産業の実演や体験、楽しみながら学べるものづくり体験教室、地産地消の青空市場、グルメ広場、全国各地の物産市、堺のスィーツ(和・洋菓子)や食品・雑貨等の展示即売、

太陽光発電システムの紹介や最新工コ技術体験など盛りだくさんな内容で実施します。

また、本イベントにあわせて、「サイクルフェスタ IN SAKAI 2010」「第18回堺線香まつり」が同時開催されます。

ご家族そろってのお越しをお待ちしております。



- 開催日時** 平成22年10月23日(土) 10:00~17:00
24日(日) 10:00~16:00
- 会場** 堺商工会議所、(財)堺市産業振興センター、(株)さかい新事業創造センターの各施設内及びその周辺スペース
- 交通** 南海高野線・泉北高速鉄道「中百舌鳥駅」、地下鉄御堂筋線「なかもず駅」より約300m(詳しくは、10ページの地図をご覧ください。)
※イベント会場には電車・バスなどの公共交通機関でご来場ください。
- 主催** 堺商工会議所、(財)堺市産業振興センター、(株)さかい新事業創造センター
- お問い合わせ** 堺商工会議所 地域・産業振興課
TEL:072-258-5581
FAX:072-258-5580
(財)堺市産業振興センター 販路開拓課
TEL:072-255-1223
FAX:072-255-5200
(株)さかい新事業創造センター 業務担当
TEL:072-240-3775
FAX:072-240-3662



イベント内容

- 堺の伝統・地場産業 ものづくり実演体験コーナー
歴史と伝統に育まれた特産品の展示販売と各種実演・体験。
- さかい逸品発掘市
優れた堺の製品や商品(逸品)を展示・実演・即売します。
- さかいスイーツフェスタ
堺の人気スイーツが大集合!
生菓子職人による実演販売もあります。
- とれたて青空市場
「堺とれたて野菜市」 地域の農産物等の販売
「堺びちびち魚市」 堺魚市場による鮮魚販売
「マグロの解体販売」 24日のみ開催(イベントホール舞台前)
- SAKAIグルメ広場
堺の飲食店等によるフードコーナーで、堺の味を楽しんでいただけます。
- 南大阪6市1町地場産業物産展
ガラス細工の他、人造真珠、爪楊枝等の展示販売。
- 大阪伝統工芸品物産市
欄間や工芸品の実演の他、桐タンス、木工品、和泉蜻蛉玉の展示販売。
- 全国大物産市
北は北海道から南は九州まで、各地で人気の名産品を展示販売。



- ものづくり体験教室
(一部事前申込)
子供たちが楽しみながら科学やものづくりの面白さを体験できます。
- 太陽光発電システム紹介コーナー
経済的で環境にも優しい太陽光発電システムが大集合。暮らしに身近な新エネルギーを体感できます。
- S-Cubeコーナー
S-Cube入居企業による無料体験やサンプル配布、商品販売。
- スタンプラリー大抽選会
自転車50台をはじめ、堺の特産品がいろいろ当たるスタンプラリー大抽選会。

同時開催

サイクルフェスタ IN SAKAI 2010

話題のニューモデル自転車や新安全基準(BAA)適合自転車の紹介の他、「おもしろ自転車」等の試乗が楽しめます。

第18回堺線香まつり

堺を代表する伝統産業の一つである堺線香の製作体験(事前申込)や、香道教室(事前申込)、お香クラフト体験の他、江戸時代の押し出し機を使った実演等を実施。

※事前申込が必要な内容についてのお問い合わせは
(財)堺市産業振興センター 販路開拓課(TEL072-255-1223)まで。
<http://www.sakai-ipc.jp/>

さかいIPC新メンバー紹介

コーディネーターに
新しいメンバーが加わり、
さらにパワーアップ!

平成22年4月に新しいメンバーが加わり、更にパワーアップして堺の中小企業の皆様の経営支援事業に取り組んでいる5名のコーディネーターを紹介します。

それぞれのコーディネーターが、民間企業や公的研究機関で培った経験と知識をベースに皆様の経営課題解決のサポートをさせていただきます。

経営のことでお悩みでしたら、ぜひ私達にご相談ください。



写真右から、田畑 一佳コーディネーター
一天満谷 英二コーディネーター
水野 潮路コーディネーター
竹中 正弘コーディネーター
宮内 修平コーディネーター

イベント担当者後記

調達セミナー&さかいIPC 環境ビジネス研究会オープンセミナー開催

注目のビジネスヒント
満載のセミナー2本を
ご紹介します!



調達セミナーの様子

こんにちは！セミナー事務局の小松です。

6月21日に日産自動車等大手企業で調達責任者を歴任した藤樹邦彦先生をお招きし、「大手企業の調達への戦略的対応方法を考えるセミナー」を開催。多数のご来場をいただきました。

参加された企業様からは、「大手企業の調達の現状についてよく理解できた」、「大手企業の調達への対策のヒントが得られた」等の声をいただき、また皆さんから数多く質問も飛び出すなど非常に熱いセミナーとなりました。



7月7日には、さかいIPC環境ビジネス研究会主催の「植物工場から始まる照明革命」と題したオープンセミナーを開催。独自の超省エネルギーLED照明を開発し、低コストの植物工場システムを提供する株式会社ベジットの猪倉博氏を講師にお招きし、食料の安定供給の救世主として注目を集める植物工場ビジネスの魅力についてお話いただきました。

環境ジャーナリストの富永秀一氏を研究会アドバイザーとして新たに迎えての最初のセミナーということもあり、ワクワクドキドキのイベントとなりました。



オープンセミナーの様子



研究会アドバイザーの富永秀一氏

研究会主催の過去のセミナーを見られるUSTREAM（ユーストリーム）さかいIPC環境ビジネス研究会もスタートしました。

さかいIPC 環境ビジネス研究会

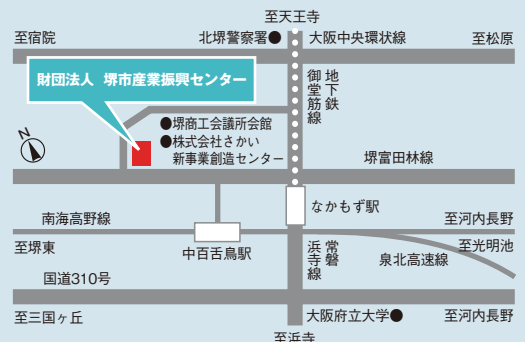
検索

経営課題にチャレンジする中小企業の皆さんを応援します

財団法人 堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナー等研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジン等による産業情報発信、イベントホールや会議室等の貸出事業など多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5
TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200
<http://www.sakai-ipc.jp/>



◎南海高野線中百舌鳥駅より約300m◎地下鉄御堂筋線なかもず駅より約300m※駐車場は、隣接の来客用駐車場（無料）がござい
ますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

百年、国産唐辛子を守り伝えて

西高野街道沿いで、百年余りの歴史を刻む「やまつ辻田」。貴重な国産唐辛子「鷹の爪」を今に守り伝えてきた唐辛子専門店です。その極上七味の秘密は何より、作り手の熱い思いにありました。

「唐辛子にはとことん、こだわりたいいやね」。豪快に語るこの人、辻田浩之社長抜きで、やまつ辻田の七味唐辛子を語ることはできません。やまつ辻田が独自に、国産唐辛子「鷹の爪」の種を守り伝えてきたというのも、この堺市福田一帯がかつて唐辛子の一大産地だったことに由来します。しかし、摘み取りに大変な手間がかかるなど採算の合わない唐辛子の栽培は徐々に廃れ、約30年前から市場に出回っている唐辛子はほとんどが外国産となりました。そうしたなか、この地で栽培されていた鷹の爪種の種を門外不出にし、契約した農家への栽培指導を通して守ってきたのです。

「唐辛子のことを何でも鷹の爪と呼んでいます。本当は品種名です。小ぶりの美しい形をし

ていて、千枚漬

けにその姿のまま

で使われたりしてい

ます。ほんまもんの鷹

の爪を小口切りにして料

理に使ったら、辛くて食べ

られませんよ。辛さは中国産の

3倍。大昔からその色と香りを愛

でたんです。果実のようないい香りが

します」と辻田社長。やまつ辻田の極上

七味は、この国産唐辛子をメインに、や

はり辻田社長がこれほど厳選した高知の

実生柚子をはじめ、山椒、青のり、ゴマ

などを、社長自らが絶妙のバランスでブ

レンドしたもの。「絶対にこのブレンドで

ないといけない」と思っていないんです。

デパートなどで、お客様の好みをうかがってオリジナルブレンドも作ります。するとお客さんがすごく喜びはる。それを見る自分が、本当は一番嬉しいねん」と語る辻田社長が、やまつ辻田の七味唐辛子そのもののようです。



やまつ辻田



歴史を感じさせる店舗外観

千年以上昔に開けた西高野街道沿いにある「やまつ辻田」。この一帯で良質の唐辛子が栽培されたのも、堺の港からこの街道を通して伝わったものと考えられており、それを誇りに思う辻田社長は商品名に『西高野街道から』と入れられています。日本の縁起物が描かれたパッケージの「極上七味」や「名代袖七味」のほか、かわいい「千代の缶」

シリーズが人気です。店頭では予約販売のみ。ホームページからの取り寄せのほか、大阪国際空港(伊丹空港)内のセレクトショップ、高島屋堺店・泉北店をはじめとする有名百貨店で購入できます。

堺市中区福田280
☎072-236-1223
<http://www.yamatsu-tsujita.com/>



辻田浩之社長